

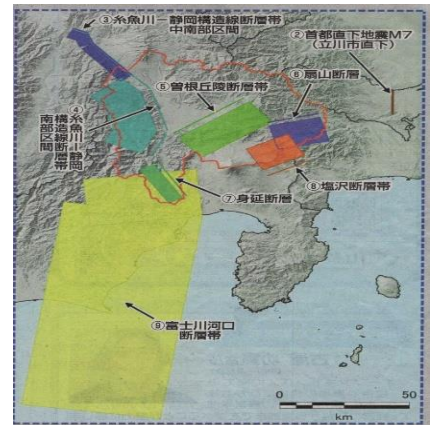
レジリエント南プス

日頃の備えを見直しましょう！

昨年1月1日に「能登半島地震」が発生し、復旧途中の9月には奥能登豪雨により被害の深刻さが増し、多くの方が苦しんでいます。

能登半島地域で、30年以内に大地震が発生する確率は「0.1～3%未満」だったにも係わらず、発生しました。

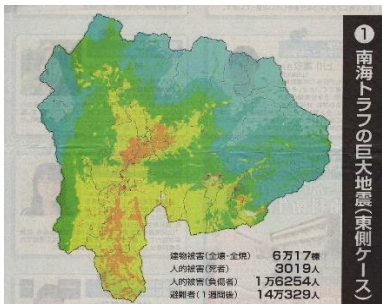
南アルプス市に大きな影響を及ぼすとされている「南海トラフ地震」の発生確率は「70%」、「糸魚川川-静岡構造線断層帯南部区間地震」は「ほぼ0.0～0.1%」、「曾根丘陵断層帯地震」は「1.0%」と言われています。この「発生確率の数値」をどう捉えたら良いのでしょうか。



山梨県被害想定より

私たちは、南アルプス市には災害が少ないという「正常性バイアス」（裏面参照）に陥りがちですが、昨年の能登半島のように、いつ巨大地震や豪雨災害に襲われても不思議ではありません。

2023年に山梨県が27年ぶりに「大規模地震の被害想定調査結果」を公表しました。これをもとに南アルプス市の被害想定も見直され、建物倒壊や人的被害などの大きな被害が想定されています。



山梨県被害想定より

また、昨年8月に「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)」が発表された際に一般住民に求められた対応策は、「建物耐震化と家具の固定推進」、「備蓄品の確認」、「家族の安否確認方法の再確認」などの「日頃の備えの再確認」でした。

これらのことは、さまざまな機会に周知、提案されています。家族の命を守り、隣近所の助け合いが出来るよう「もう一度、地域や家庭での防災・減災対策の再確認」をお願いします。

みんなで力を合わせて、大切な人・大切なまちを守りましょう。

協議会への入会者を募集しています。防災士・防災リーダーの有資格者の皆様、入会をご検討ください。

問い合わせ：055-282-6494 市役所防災危機管理課まで

*レジリエンス(Resilience)とは、回復力、しなやかさを意味する言葉です。災害に対する予測力・予防力・対応力を培っていくことを目指して、機関紙のタイトルとしました。

発行者：南アルプス市防災リーダー連絡協議会
TEL:055-282-6494 (防災危機管理課内)

2024年「防災リーダー連絡協議会」活動報告

1月 ・能登半島地震で被災された姉妹都市石川県穴水町への
支援物資搬送の状況報告会

・機関紙第6号発行
(防災対策の確認と要配慮者について)

・茅ヶ崎市へ視察研修
(地区防災計画作成先進地)



5月 ・南アルプス市主催「防災講演会」に
各地区自主防災会防災リーダーとして参加

6月 ・「地区防災計画」作成研修会の開催

7月 ・機関紙第7号発行(水害対策の周知と分散避難について)

・市内自主防災会へ「地区防災計画」策定支援開始

7月～8月 ・夏休み子ども防災スクールの開催(市委託事業)
市内14か所の「放課後児童クラブ」

で実施、615人の児童が受講

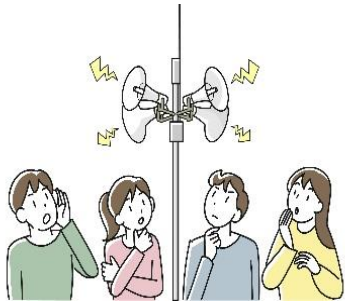
定期役員会開催(年6回)



シリーズ防災・減災 No.8

『正常性バイアス』ご存じですか？

危険が迫っていても「自分は大丈夫」と思い込んでしまう脳のメカニズムの事を言います。一刻を争う時に「正常性バイアス」が働いてしまうと、命が危険に晒されてしまいます。



『正常性バイアス』は正しい訓練で防ぐ事が出来ます



その事例として挙げられるのは東日本大震災における「釜石の奇跡」といわれた釜石市の小・中学校の生徒たちの避難行動です。釜石市は平時から群馬大学の教授の指導の下で「防災教育」を実施してきました。その結果、津波の規模を児童・生徒が自ら正しく判断し、より高台に避難して多くの児童・生徒や住民の命を救う事が出来たのです。「教育」と「訓練」の成果だといえるでしょう。

※ 図の黄線はハザードマップ上の津波の最大規模、赤線は過去の最大規模、青線は実際に津波が押し寄せた範囲。